

## ●アミオダロン注の投与方法について 150mg/3mL

### 【効能・効果】

生命に危険のある下記の不整脈で難治性かつ緊急を要する場合  
心室細動、血行動態不安定な心室頻拍



### 【用法・用量】

通常、成人には以下のとおり点滴静注により投与  
症状に応じて適宜増減あるいは追加投与を行う  
最大量として1日総投与量は1250mgを超えない、投与濃度は2.5mg/mLを超えない

○投与方法（48時間まで） 容量型の持続注入ポンプを使用

#### 初期急速投与

アミオダロン  
塩酸塩として  
125mg  
(2.5mL)  
+  
5%ブドウ糖液  
100mL

600mL/時  
(10mL/分)  
10分間

#### 負荷投与

アミオダロン  
塩酸塩として  
750mg  
(15mL)  
+  
5%ブドウ糖液  
500mL

33mL/時  
6時間

#### 維持投与 (i)

負荷投与の  
残液

17mL/時  
18時間

#### 維持投与 (ii)

アミオダロン  
塩酸塩として  
750mg  
(15mL)  
+  
5%ブドウ糖液  
500mL

17mL/時  
24時間

アミオダロン  
塩酸塩として  
600mg投与

○追加投与 容量型の持続注入ポンプを使用 国内では3回までの投与経験しかない

血行動態不安定な心室頻拍あるいは心室細動が再発し、本剤投与が必要な場合  
→1回の追加投与

本剤125mg (2.5mL) + 5%ブドウ糖液100mL  
600mL/時 (10mL/分) 10分間

○継続投与（3日以降） 容量型の持続注入ポンプを使用 国内では最長7日間までの  
投与経験しかない

48時間の投与終了後、本剤の継続投与が必要と判断された場合  
→アミオダロン塩酸塩として750mg (15mL) + 5%ブドウ糖液100mL  
600mL/時 (10mL/分)

### 【効能・効果】

電気的除細動抵抗性の心室細動あるいは無脈性心室頻拍による心停止

### 【用法・用量】

アミオダロン塩酸塩として300mg (6mL) 又は5mg/kg (体重)  
+ 5%ブドウ糖液20mL (静脈内へボラス投与)

心室性不整脈が持続する場合

→150mg (3mL) 又は2.5mg/kg (体重) + 5%ブドウ糖液10mL (追加投与)

### 【注意】

- ・点滴静注時には容量型の持続注入ポンプを使用
- ・初期急速投与时、追加投与时は1アンプルから本剤2.5mLを注射筒で抜き取り調製
- ・初期急速投与时、ボラス投与时は血圧の低下に注意（2-3分毎に血圧の確認）  
ボラス投与时には心拍再開後の徐脈の発現にも注意
- ・肝機能の慎重なモニタリングを実施（投与開始から3日間は1日2回以上の頻度で）
- ・PVCフリールートを使用
- ・沈殿が生じるため生食との配合を避ける